

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】 小学校第5学年

【単元名】 低い土地の暮らし（5時間扱い）

【育成する資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕
<ul style="list-style-type: none"> 我が国の人々は自然環境に適応して生活していることを理解する。 地図帳や地球儀, 各種の資料で調べ, まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地形や気候などに着目して, 国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え, 国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を捉え, 表現する。

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり：「国土の地形の特色」において、我が国の国土の地形や気候の概要について学んだ。

働かせる見方・考え方： 地形に着目して、地域の人々の生活の工夫と関連付けて考えること。

段階	□学習問題 (時間)	留意点
課題把握 (つかむ)	<p>1 なぜ、町の中に舟がうかんでいるのだろう。(1)</p>	<p>気付きや疑問から「問い」を設定する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> 水害の時の写真や、当時の小学生の作文などから、気付いたことを出し合い単元の学習問題を設定する。
	<p>単元の学習問題：なぜ、〇〇さんや海津市の人は、水害にあってもこの低い土地に暮らしているのだろう。</p>	
課題追究 (調べる・考える)	<p>2 なぜ、水害が多いのだろう。(1)</p>	<p>予想から解決の見通しをもつ場面</p> <ul style="list-style-type: none"> 経験や既習事項を生かし、予想を出し合ったり、結果を見通したりして、単元の追究の計画を立てる。
	<p>3 人々はどのように水害から生活を守ってきたのだろう。(1)</p>	<p>予想や仮説の検証に向けて調べる場面</p> <ul style="list-style-type: none"> 地図帳を利用して、長野県と比べた地形の特色を児童自らがつかめるような活動を設定する。 資料を調べる際には、人々の工夫や努力や豊かな水の利用など着目する視点を明確にして読み取ることができるようにする。 考える際には、身の回りの様子や既習事項と比べたり、人々の生活とつなげたりすることができるようにする。
	<p>4 低い土地では、どんな工夫をして産業が営まれているのだろう。(1)</p>	
課題解決 (まとめる)	<p>5 なぜ、〇〇さんや海津市の人は、水害にあってもこの低い土地に暮らしているのだろう。(1)</p>	<p>学習を振り返る場面</p> <ul style="list-style-type: none"> 地形と人々の生活の関連に着目して、単元の学習問題についてまとめる場面を設ける。 地図帳を掲示するなど、長野県と比較できるようにする。
	<p>【ねらいを達成した子どもの姿】 低い土地に暮らす人たちは、高い堤防をつくったり、今も水防訓練をしたり暮らしを守る取り組みをしている。そのうえで、豊かな水を利用した農業や施設の工夫がある。つまり、長野県の高原野菜と同じように、地形に合わせ、よさを生かして生活しているということがわかった。</p>	

次単元へのつながり：日本のつゆ、台風、季節風にはどのような特色があるのか調べ、グループごと図絵などを用いて発表し、日本の気候の特色をまとめる。